

(3) 鑑賞の学習における言語活動の充実

ア 対話型鑑賞法との区別

1990年代、日本で鑑賞ブームが起こりました。アメリカ・アレナスの対話型鑑賞法によるものです。彼女はギャラリートークを進行する美術館スタッフの研修を行いました。その時の様子が次のように書かれています。(1)

「アレナスは発信者の意図を掘り下げながら対話のやり取りを構成していく。間合いをはかって話を転換させたり、意見をまとめたりして、少しずつ作品の核心へと迫っていく。スタッフたちはアレナスの研修を通して、作品と向かい合って自分が考えたこと、自分の中にわき起こる感情を話すことがとても気持ちのよいものであり、おもしろいものであることを学んだ。見る者が主体的に作品と対峙することで、自分なりの解釈、意味生成を行っていく作品鑑賞の醍醐味を体験したのである。」

上野 行一 「風神雷神はなぜ笑っているのか」 光村書店 平成26年 p.81より引用

このような対話型鑑賞法は鑑賞活動の理想の姿として捉えられました。生徒は自身の中での価値観について話し、他の生徒の意見を聞きながら、自分になかった価値観に気付くことができます。幅広い価値観に触れることで多面的に捉えることができ、見方や感じ方を育むことにつながります。生徒は、作品に対する疑問や質問をまずは教師に向けていきます。そのため、教師はファシリテーターとなる必要があり、美術に対し幅広い知識が必要とされました。

「美術作品は自由に見てよいので、どんな見方をしてもよい。自分の見方を大切にしましょう」という、アレナスの言葉だけが教育現場で広まり、このことと個人主義を支持する社会の動きとが相まって、これまで鑑賞の授業に二の足を踏んでいた美術教師は、ひたすら見せることのみで執着していきました。しかし、アレナスが述べるような、生徒に感動を起こすような鑑賞の授業にはならず、次第に対話型鑑賞法は学校現場の中でも話題にのぼらなくなりました。

上野行一は、鑑賞の学習を学校教育の現場に合わせるために必要な理由を次のように述べています。(2)

美術の授業として行う場合には、学習指導要領に基づいた発達段階ごとの学習内容に沿って学習課題を設定し、学習目標を立てる。対話の内容は生徒に委ねられるが、対話の進行は学習目標に即して行う。そのため、学習目標に即した作品を選択したり、発問を考えたり学習指導案を作成したり、授業のまとめ方を考えることが必要である。

上野行一 「風神雷神はなぜ笑っているのか」 平成26年 P.15より引用

つまり、アレナスの対話型鑑賞法を、学校現場に合ったものにするため、以下の項目が大切であると考えます。

- ① 生徒の実態把握
- ② 学習目標の設定
- ③ 事前準備 (①を基に、シミュレーションを行い、予測できるものを考える。)
- ④ 生徒の対話活動

イ VTSについて

これはニューヨークの近代美術館（MoMA）がギャラリートークで示した考えを基にした考え方です。この理論では、「作品の解釈や知識を一方的に提供するような解説を行うことはせずに、美術館職員が『作品の中でどんな出来事が起きていますか』と鑑賞する側に問い掛けて鑑賞の時間が始まり、鑑賞者は次々に意見を述べながら作品の主題に迫っていきます。作品と鑑賞者とのコミュニケーションを通じた関係によって意味が付加されていきます。この理論の基になる考えが、マサチューセッツ美術大学アビゲイル・ハウゼンの「美術の鑑賞者の発達段階と必要な指導法」です。アビゲイル・ハウゼンは、初期の段階として、「作品をじっくりとみようとせずに、全く別の自分の記憶や経験へ連想が飛躍する。年齢に関わらずに、美術鑑賞経験の少ない人が該当する」⁽²⁾と述べています。つまり、美術鑑賞経験の少ない小・中学生に対しての指導法として、まずは、美術作品を見せ、その印象を物語として語らせます。次にその発言を肯定的に認めつつ、より普遍的な言葉に導いていくことが有効的だと考えられます。

VTSの理論では、生徒が自分の考えをもつことが重要とされます。自分の考えをもたせるために、教師は以下の3つの発問を行います。⁽³⁾

3つの発問	A. この作品の中で、どんな出来事が起きているのでしょうか？
	B. 作品のどこからそう思いましたか？
	C. もっと発見はありますか？

フィリップ・ヤノウィン 『どこからそう思う？学力を伸ばす美術鑑賞ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズ』 平成27年 p.43より引用

この3つの発問を通して、生徒が自分自身に自問自答しながら鑑賞活動を行うことができるようにし、さらに生徒同士が対話することで、お互いの考えを共有し、批評し合うことを通して、自らの考えを深めていくような学習を展開します。そうすれば、生徒は自分の感じたことを説明できるようになっていきます。

対話型鑑賞法が学校現場に定着しなかった理由とVTSの理論を基に、学校現場に合った形に直していきたいと考えます。そのために生徒の実態調査を行い、より学校現場に合った形を模索しました。

《引用文献》

- (1)(2) 上野 行一 『風神雷神はなぜ笑っているのか』 平成26年 p.81 p.15
 (3) フィリップ・ヤノウィン 『どこからそう思う？学力を伸ばす美術鑑賞ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズ』 平成27年 p.43